| | | | <u> </u> | ノ 余 I 〜 XJ 9 の ハ ノ リツク コ ア ノ ト ー 平成24年度アクションプラン案に対する | <u>- 5</u> 2 ご意見 | 科学技術全般 | に対するご意見 | AF | Pに関す | ーナル トるご意 | F7月1 t象箇所 | |
|-----|---------------|-------------------------------|--------------------------|---|---|----------------|---------|----|------|-------------|----------------------|------------|
| No. | 投稿 者属 性 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | | | 3. グリーン | 5. 基 6 礎·人 0 材 | i. そ D他 |
| 1 | 団体員 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | | 「災害から命・健康を守る」については、防災関係者によるオペレーションと一体となった活動から、ニーズを導き出し研究開発と実証を行う必要があり、8ページにも多少触れられているものの、新しいシステムを開発して実用配備することについては、これまで、各省によるボトムアップ型では、ほとんど実現できていない。仕事のやり方を変えるためには、国としての強力なリーダシップが必要。例えば、中央防災会議(ニーズ)を踏きえた、今後の研究開発の役割を明確にすべきではないか。その中で、既に省庁横断的なシステムとして定着しつつある開発技術は一気に実用化すべき。 | いいものができたからと言って、すぐに制度化して 配備することはできない。仕事のやり方、法規、 令等を変更する必要がある。特に、省庁縦割りな ので、研究開発省庁から防災実務省庁への橋渡 しは、自然には進まない。 特に今回の震災では、文科省の衛星観測技術が 省庁横断的に活用されているが、これは、第3期 科学技術基本計画によって国家機関技術として 推進される中、文科省/JAXAが積極的に防災機 関との連携を構築してきた積み上げの成果であ る。こうした成果が、単発のプロジェクト花火で終 わるのではなく、実用システムとして定着するため には、施策の継続性(実用のための開発を含む) と国のリーダーシップが重要である。 | | | | 0 | | | |
| 2 | 団体員 | びに災害からの | | 7ページ:政策課題の設定 に関し、住民の視点が強調されているが、国益・ホームランドセキュリティの観点も必要ではないか。 国が想定外の災害に遭遇し混乱している時、当該災害への局所的対処だけでなく、そもそも国としてどんな脅威にさらされ、何に備えなければならないのか大局的に把握し、ガバナンスの正常化を世界に対し早く示さなければならない。そのためには、災害にその場主義で対応するのではなく、全体像を早期に把握する、想定内なのか想定外なのかオペレーションや避難の進め方を判断するといった大局的観測手段の研究開発が必要である。 | 今回の災害対応では、情報発信の問題もあり、米 国をはじめとする諸外国からの不信感を招いてい る。国内問題だけではなく、世界における日本の あり方についても反省事項が多い。 また、東日本大震災への対応にリソースを集中さ せたが、東シナ海における脅威への備えには問 題なかったか? 国全体の危機管理としての視点 からも科学技術の貢献を考えるべき。 | | | | 0 | | | |
| 3 | 団体員 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | | 7ページ:3つの災害として、地震・津波・放射性物質をあげているが、中央防災会議では、首都圏大規模水害についても備えるべき巨大災害として、検討を行っている。特に、気候変動問題は水害と結びついており、近年、極端化、激甚化傾向にある。また、新燃岳は依然として活発な活動を続けており、噴火だけでなく土石流についても住民に対する脅威となっており、早期警戒と非難が必要とされている。従って、水害と火山についても、我が国が科学技術を用いて備える災害、監視すべき災害として認識しなければならない。 | 東日本大震災だけが災害ではなく、そもそも、我 が国は世界でも有数の災害多発国であるという基 本を忘れているのではないか。 | | | | 0 | | | |
| 4 | | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 12ページ:グリーンエネルギー供給の安定確保において、再生可能エネルギーの供給拡大のためには、地球規模のアセスメントやモデリング技術を活用することを明記すべき。 | 再生可能エネルギーを有効に長期に亘って利用するためには、短期的な「気象」だけでなく、中長期的な「気候」を把握することが重要である。特に、今後、気候は変動することから、地球規模の継続観測とモデルシミュレーションは常に必要である。 | | | | | 0 | | |

| | | マテステノ。 | · / / . | ノ余 I こ XI 9 の ハフ リツク コ ア ノ ト ー 平成24年度アクションプラン案に対する | | 科学技術全般 | に対するご意見 | Al | つに関す | 十万 でるご意 | 灭23 年 見の対 | | |
|-----|---------------|---|--------------------------|--|---|---|--|----|------|------------|---------------------|------------------|---|
| No. | 投稿 者属 性 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | | | 3. グリーン | | 5. 基 礎·人 材 | |
| 5 | 会社員 | 3. クリーン・イノ | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 自然エネルギーは経済性向上、エネルギーマネジメントは分散エネルギーのスマート化を柱としているが、「都市エネルギーの地産地消」を盛り込むのはどうか。都市のエネルギー消費量とエネルギー創出量のミスマッチを解決すべく、ZEB(で加工ミッションビル)や副都心エネルギー効率化(施設規模をうまく利用した太陽光発電、排熱利用など)を積極的に盛り込むのはどうか。 | | | 技術力が世界有数の項目が多い一方で、事業に育つまでの時間がかかり過ぎており、長終的に技術力が平別な海外勢に負けている科学技術開発が敬見されるため。太陽光発電はその典型と考える。 | | | 0 | | | |
| 6 | そ他 | 6. その他 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 化」が位置付けられていたが、今回は、「基礎研究の振興及び人材育成の強化」で僅かに触れられているだけである。 しかも、前年度の同アクションプランについては、 内閣府の事務局能力の欠如を主な理由として、そのロードマップどおりに進んでいないと側聞している。 | 競争的資金の使用ルール等の統一化に関するタスクフォースの第3回は、一年以上前(2010/6/9)に開催されていたばすであるが、未だ議事録も掲載されていない。 http://www8.cao.go.jp/cstp/budget/action.html 過去のアクションプランのフォローアップは、最低 | | | | | | | | 0 |
| 7 | 研究 者 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | このまま推進 すべき | 今回の震災を受け、防災機能の検証をしっかり行い、復興・復旧のあり方を検討するとともに将来被災の可能性のある地域の対策を現段階から真摯に考えることは極めて重要であり、是非推進すべき | 審査委からの早期復旧はもとより、今後予想される震災に対する現在対策は、住民の安全のみならず経済的な影響も甚大で、日本の国力の低下を防ぐ上で極めて重要である。 | これまで調査に重点が置かれてきた 科学技術政策のウェイトを対策に移 行するするタイミングではないかと思 う | 現状では予知のタイミングは直前であり、避難に資する時間的猶予は限定的と思われる。このような状況で少しでも被災を防ぐためにはハード的な対策にもう少しカ点を置いた施策が不可欠であると思う。 | | 0 | | | | |
| 8 | 白 | 2. 復興・再生並 びに災害内との 安全性研究の振興 及び人材育成の 強化 | このまま推進 すべき | 2について 早急に行動に移してしていただきたい。 5について ・我が国の将来を考えればたゆまぬ人材育成が 不可欠であり、特に、団塊の世代が各方面で第一 線から退く時期が迫っている。 ・研究のピークは多様な基礎研究があって生まれ るもの。科研費は我が国の基礎を支える唯一の 基礎研究費であり、全研究種目の早期の基金化 は極めて重要。 | ・「想定外」等と言わないでもよい復興再生が重要。 ・いびつな年齢構成の補完加えて将来に希望がもてる展望を示し、多様な分野で活躍する若手研究者養成を図る必要がある。・・科研費の全研究種目の基金化は研究者にとっての夢。思い切った研究計画をたてることができることによる研究効率の向上はもちろんであるが、安心して執行できることにより、有能な研究者に不正使用等の過ちを犯させない、いわば、保険にもなる。 | 我が国はもちろん人類の未来のためにも科学技術の振興にご尽力いただきたい。その際、国益を担うトップダウン的研究と科研費のような多様性を培うボトムアップ研究のバランスにご配慮いただきたい。多様な人材養成にも資するものと考える。 | | | 0 | | | 0 | |

| | | | | 平成24年度アクションプラン案に対する | <u>見</u> ご 意見 | 科学技術全般 | に対するご意見 | Al | こに関す | | - / |
|-----|------------|-------------------------------|--------------------------|---|--|----------------|---|----|------------------|---|--------------------------------------|
| No. | 性 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | | 2. 復 興·再 生 | | 5. 基 6. ⁻² 檚・人 の他 材 |
| 9 | ザ 先 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | | 2-2「独創的で多様な基礎研究の強化」(2)(1)執行の柔軟性の向上について全研究種目について科研費を基金化するプランを推進して頂きたい。 | 科研費は単年度会計だと予定できるものの他は (書籍の購入等)2月3月に使用できず、研究に支 障がでている。海外等に行く機会が多い3月に柔 軟な計画をたてられず(3月末日に帰国せねばな ど)不便である。また、研究を進めていくと予算の 使途が明確化し、当初の計画とは異なる場合も出 るものの、単年度会計だと、こうした研究の進展に 対応し辛く、効率的・効果的な活用が阻まれる。 | 方針に差を設けて頂きたい。 | 文系と理系は研究方法が異なる。文 系では、いくつかの拠点に多くの予 算を配分するよりも、少額の科研費 を幅広く多くの人に配分した方が、長 期的には良い研究が育つと思われ る。多額の予算を国際シンポジウム などで消化するよりも、多くの研究者 が図書を十分に購入でき、コン ピュータ関連機器を備えられ、海外 などに研究調査に行ける方が良いの ではないか。 | | | | 0 |
| 10 | | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | した上で推進 すべき | 「世界トップレベルの基礎研究の強化」を政策にあげるのは大変すばらしいことであり、地方に研究拠点を形成することは地方経済の面でも大変意義のあることだとと思う。一点、気になるのが初等・中等教育について言及していないことである。初等・中等教育が充実こそが、すばらしい研究者が生まれる土壌となるはずだが、現状では初等・中等教育が充実しているとはいえないのではないか。そこで、初等・中等教育の充実、中でも理系科目、特に数学の学力向上について是非言及してほしい。 | 日本の学力低下が叫ばれて久しく、指導要領の 見直しなどによる初等・中等教育の改善が行われ ているが、十分であるといえないと思う。そこで、 科学技術的な見地から初等・中等教育の重要性 について言及し、「世界トップレベルの基礎研究の 強化」の土壌作りをしてほしい。直接関係ないかも しれないが、是非、アクションプランに盛り込んで いただきたい。 | | | | | | 0 |
| 11 | 団体職員 | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | グリーン・イノベーションから原子力がはずされているが、原子力に係る研究開発が原子力発電所等の原子力施設の安全性強化やより安全な革新的な原子力発電所等に関する研究開発を進めるべき。 | 東京電力福島原子力発電所事故を踏まえ、アクションブランから原子力の研究開発を除外することは、総合科学技術会議が脱原発を標榜していることと理解できる。 原子力発電所等の原子力施設は既に存在しており、国民が安心して暮らせるように既存原子力施設の安全基準に対する検証を科学的根拠をもって示すことや、より安全性を高めた原子力施設の研究を実施することは東京電力福島原子力発電所事故に対する国の責任を果たすこととなる。 | | | | | 0 | |
| 12 | 公務 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 災害のカテゴリーの中に、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの重要な家畜伝染病を加え、その発生予防、拡大防止、根絶などの対策のための科学技術プランを考えていただきたい。 | 災害は、地震、津波、原発事故に限定している記述であるが、昨年の口蹄疫の発生、高病原性鳥インフルエンザでは、多くの人々が苦しみ、経済的被害も大きい。このような家畜伝染病も"災害"との認識であってほしい。伝染病の国内侵入の可能性は今後もある。しかし、科学技術の進歩により、これらの家畜伝染病の拡大防止、根絶は"地震"等と比較して、容易に解決できると考えている。 | | | | 0 | | |

| | 1 190,2 | - T /文 / ノ / | <u> </u> | ノ 未 [- X] 9 ⑥ ハ ノ リソソ コ ア ノト 平成24年度アクションプラン案に対する | | 利学技術会配 | こ対するご意見 | ٨Ε | に関する | 平成23 ご音目 σ | | |
|----|----------|--|--------------------------|---|--|---|--|-----|------------------------|---------------|---|------|
| No | 投稿 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | | 理由 | 1.ね | 2. 復 3. 興・再 リー 生 | グ 4.ラ | | 6. そ |
| 13 | 研究者 | 振興及び人材育 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 「目指すべき社会の将来の姿」では、1はノーベル賞クラスの有意な人材の育成であり、4は1の苗床となる高レベルの科学者の育成を指している。一方で、2や3の指す内容は些か曖昧である。より明確に、「知の方法としての科学の重要性を社会全体がより深く認識し、これを活用する。」ことを提言したい。また、政策課題は1、4に向けて偏っており、科学を社会に根付かせるための高等教育の重要性を取り上げていただきたい。 | ライフイノベーションで「先制医療」の取り組みが 謳われている。過去には予防接種の普及事業が あげられるが、こうした取り組みが成功を収めるた めには、国民レベルでの生命科学の知識の向上 が欠かせない。しかしながら、現実には生命科学 の目覚ましい進展は高等教育において普遍化さ れておらず、むしろ似非科学に依拠した健康食品 や代替医療が跋扈している。コンパクトで知的水 準の高い社会を目指した予算措置が必要と考え る。 | 9 もうにめに、高校から大学教養レヘル(特に文系が選択する講義)の高等教育を大胆に改革し、研究者としてのキャリアからおりた人材を活用する仕組みを作る必要がある。国際交流以前に、理系の人材を政策決定プロセスに大胆に取り込む「頭脳循環」が需要である。 | 国立大学予算の継続した削減の結果、運営交付金の研究室への配分が実質ゼロという事例が増加している。競争的資金への重点化により研究計画はシャープになったが、一方で、活動を実質的に停止するまたが、の研究室が増加している。優れた研究室が増加している。優れた研究室生活を送ることは、社会的損失であり、当該研究室教員も含めた有効な人材活用を計るべきである。科学を軸とした高等教育の再設計が日本再生の鍵である。 | | | | 0 | |
| 14 | 研究者 | 4. ライフ・イノ ベーション ,5. 基礎研究の振興 及び人材育成の 強化 | このまま推進 すべき | ライフ・イノベーションにおける基礎研究の振興及び人材育成の強化の充実を掲げている点は非常に重要である。その中でも、疾患治療の基幹的研究分野である薬学研究と創薬研究者・薬剤師育成の充実は不可欠な要素であり、その振興を是非とも希望する。 | 今後の日本の国民医療にとって新規医薬品の開発は非常に重要であり、その下支えとなるのは、創薬研究、創薬教育の充実である。特に、高度な専門的技術の涵養が必要な大学院生の経済的支援と教育スタッフの充実は、国策としての推進を望みたい。 | | | | | 0 | 0 | |
| 15 | その他 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 ,6. そ の他 | その他 | 科研費以外の競争的資金にも触れるべきである。 科研費は、現状では、先端的であるが、それ以外の制度は、科研費にも及んでいない。それ以外の制度を科研費のような使い勝手の良さを目指す方が、科研費をさらに良くするよりも全体からすると、効果が大きい。むろん、これは科研費を軽視する見解ではないので、注意されたい。「基礎研究への国民からの理解、信頼、支持を促進する。」とあるが、最近の官僚の日本語能力はこんな程度なのか。 | 制度数からみれば、科研費は数ある競争的資金の一部にすぎない。科研費以外にも言及するべきである。 | 総合科学技術会議が不安。期付された役割が果たせておらず、廃止すべき。近年の財政状況を鑑みれば、このような組織を整理縮小し、スリムな行所を目指すニャが必要である | 内閣府・内閣官房が肥大化しすぎである。 政務官や副大臣がいくつも担当を兼ねては、スピーディな行政は到底期待できない。 思い切った合理化が必要である。 | | | | 0 | 0 |
| 16 | 研究者 | 振興及び人材育 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 現在の案に加えて、ラボマネージャーの育成と導入を取り入れるべき。ラボマネージャーの主たる職務内容としては、現状の一般的な秘書などでは行えない、研究室運営や研究結果公表などの研究活動に密接に関連した事象のサポートを期待する。 | 現状では、PIとなった研究者は研究活動以外の用務に追われ、研究活動に専念できていない。今後は、研究結果の国民への広報など、より用務が増え、研究活動の停滞が懸念される。また、現費で育成した博士研究者の有効活用が望まれる。これらの問題を解決するために、ある程度の規模の研究室へのラボマネージャーの導入を期待する。これにより、研究者が研究活動に専念でき、また、博士修了者の雇用問題もある程度解決すると考えられる。 | | | | | | 0 | |
| 17 | ,研究 者 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | このまま推進 すべき | 日本においては基礎研究の推進は極めて重要であり、そのためには長期的視野にたった政策が必要である。 | 基金化を推進し研究の柔軟性を保ち、研究こそ日本の将来を左右するという認識が必要である。 | | | | | | 0 | |

| | | ·*干 <i>汉 / /</i> · | <u> </u> | ノ余 I こ XI 9 の ハフ リツク コ ア ノ ト ー 平成24年度アクションプラン案に対する | | 科学技術全般 | に対するご意見 | Α | Pに関す | | 成23年 意見の対 | | |
|-----|------|--|--------------------------|---|--|---|-------------|---|------------------|-------------|--------------|------------------|------------|
| No. | 投稿 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | | 2. 復 興·再 生 | 3. グ リーン | 4. ラ イフ | 5. 基 礎·人 材 | 6. そ の他 |
| 18 | 研究者 | 1. アクションプ ランのねらい。2. 復興・再生並び に災害からの安 全性向上、3. グ リーン・4. ライ フ・イノベーショ フ・イノベーショ | | これまでの、この国の災害危機の警鐘や提案、提言、研究申請に対して、想定外の災害が発生して以来、手のひらを変えたような、科学技術政策方針の方針転換をする前に、これまでの関連する提言を過去の審査の間違いを問い直したほうがよいのではないか。事象の不変性(危険性)を本気で訴えてきた多くの方々の声を捨てておいて、大災害が生じてから最重要課題の優先順位が変わるというのは、これまでの優先順位が変わるというのは、これまでの優先順位があかしかったに他ならない。それに、多額の助成金を投じてきたこともはっきり言っておかしい。特に、被災者の弱者の立場と多額の原子力等に費やしてきた科学技術政策の間には取り返しのない事象が生じている。 | これまでの災害防止や災害危機に関する一貫した提言を尊重し、その審査過程をはっきりさせるべきである。納得できない関係者も多いと思う。 | 被災地に太陽光発電などの再生エネルギーの拠点づくりは、被災者のための施策ではない。被災者の為に、仮設住宅レベルではなく、包括的な住と働く場所を提供するような国策的な、韓国のインチョンー未来エコタウン構想モデルのような、住宅も産業も潤うようなこの国の将来のある、夢あるタウン復興計画をまとめるべきである。 | | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 19 | 公務員 | 4. ライフ・イノ ベーション .5. 基礎研究の振興 及び人材育成の 強化 | した上で推進 | する予防(防疫)措置や危機管理体制の構築は国 | 2009年に世界中を緊張させた新型インフルエンザ、2010年に宮崎県で発生した口蹄疫等の感染症は、グローバル化したた世界情勢、特に中国大陸との交流が盛んな我が国においては、今後とも発生のリスクが大きい。さらに、2010年から2011年にかけて国内の広い地域で発生した高病原性鳥インフルエンザは、野鳥がウイルスのキャリアとなっており、本病のコントロールが極めて難しいことを示唆している。 | 義務教育を含め、国民全体に対して、災害、感染症(食の問題、環境問題を含む)など、生命を脅かすような事態に対応するための科学的な教育の場を継続的に設けていただきたい。 | | | | | 0 | 0 | |
| 20 | 研究者 | 4. ライフ・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | がん、生活習慣病、精神・神経疾患の予防、治療において薬の果たす役割は大きい。現存する薬の効果的な使用も重要であるとともに、副作用などの問題点を改善した新規医薬品の開発は、心身ともに健康で活力ある社会の実現に不可欠である。また研究の発展は研究者の育成無くしてはあり得ず、大学院生を経済的問題から開放し、自由に研究に専念できる環境を整備する必要がある。 | 医薬品の開発には、薬理学、生化学、有機化学、物理化学、分析化学など幅広い分野の研究が必須であり、特定の分野に偏ること無く研究を発展させることが、医薬品開発には必須である。 | | | | | | 0 | | |
| 21 | 公務員 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上,5. 基礎研究の振興 及び人材育成の 強化,6. その他 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 口蹄疫・高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜 伝染病研究の推進 | 口蹄疫・鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病は、国として研究政策を推進すべきであり、総合科学技術会議のアクションプランに入っていないのはおかしい! | なし | なし | | 0 | | | 0 | 0 |
| 22 | 団体職員 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | | 事業仕分け等により、第3期科学技術基本計画まで進められてきた競争的資金制度の位置付け、 方向性が不明確になっている。競争的資金について適宜制度の改革の検討を示しているが、国としての競争的資金や基盤的経費に対する方向性を 再度提案すべき。 | 競争的資金において、間接経費制度の廃止や見直しが行われている。国の研究資金に大きく依存している大学等における研究活動が継続的に活性化していくためには、国の明確な考え方が提案される必要がある。 | | | | | | | 0 | |

| Ė | | ·¬ ナ <i> 又 / ノ</i> / | <i></i> | ノ 未 [こ X] 9 る ハ ノ リソフ コ ア ノト ー 平成24年度アクションプラン案に対する | | 科学技術全般[| ニ対するご音目 | Δ | DI=関で | するご意 | 区23年 | | |
|-----|---------|--|--------------------------|---|---|--|---|---|-------|-----------------|--------|------------------|------|
| No. | 投稿 者属 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | | | 2. 復 | 3. グ 4 リーン イ | 1. ラ 5 | 5. 基 礎·人 材 | 6. そ |
| 23 | | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 12ページ政策課題2-1「クリーンエネルギー供給の安定確保」に於いて、「再生可能エネルギー」推進に絞っている。しかし、それに絞る事無く、広く「新エネルギー」の開発に努めるポートフォリオ型「新エネルギー研究」推進を堅持すべき。 | 我が国の国土の状況を考え、再生可能エネルギーのみでは我が国のクリーンエネルギー供給の安定確保が困難である事を、広く識者が指摘している。更に、ヨーロッパでの太陽光発電の積極導入政策への投資が、結局は中国の科学技術イノベーションになった結果も重視すべきである。こうした状況を踏まえ、クリーンエネルギーの開発を単一対象に絞らず、ポートフォリオ型「新エネルギー研究」推進を堅持すべき。 | | | | | 0 | | | |
| 24 | | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | グリーンイノベーションの推進は重要であるが、一 方では、原子力、特により安全な原子力のエネル ギー利用に関する研究は必要である。 | 東アジア、中国や韓国では原子力発電を推進しており、日本が原子力の研究を放棄することは将来に大きな禍根を残すことになると危惧される。 | | 食料の自給に関する課題はいつも 政治的である。科学的な視点から国 民を納得させうる検討が必要であ る。 | | | 0 | | | |
| 25 | 会社員 | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | l | | | | | | 0 | | | |
| 26 | 研究 者 | 4. ライフ・イノ ベーション ,5. 基礎研究の振興 及び人材育成の 強化 | | 心身ともに健康で活力ある社会の実現を目指すライフイノベーションは、重点的に推進すべき課題だと思います。 研究費の基金化やカード利用などを推進してほしい。 | | 重点的な投資の他に、自由な発想に 基づく研究への投資も重要だと考え る。 | 自由な発想に基づく研究からのみ、 真に革新的な結果が生まれる。 | | | | 0 | 0 | |
| 27 | 研究 者 | 1. アクションプランのねらい.4.ライフ・イノベーション.5. 基礎研究の振興及び人材育成の強化 | このまま推進 すべき | 自閉症、統合失調症、うつ病等、精神疾患の基礎的研究を発展発展させることは、非常に重要な施策と考える。また、そのための人材育成は必要不可欠であると思われる。研究は、当初の計画通りにはなかなか行かないことが多いので、競争的資金に関する執行の柔軟性の向上は非常に有益であり、審査の公平性は、研究者のモチベーションに大きく影響する。以上より、貴アクションプランを全面的に支持すると共に、さらなる発展を望みます。 | 自閉症、統合失調症、うつ病等、精神疾患は一度 発症すると、寛解(治療薬を一生涯飲み続ければ 一応症状は落ち着く)することはあっても、完治 (服薬を中止できて、完全に病前の社会的機能レ ベルまで回復)すること困難である。また、精神疾 患は若いときや働き盛りの方に発症することは言うに及ばず、これからますます少子化を迎える社 会にとって、大きな負担となる。現在、どの精神疾 患も原因不明で根本的治療薬はない。よって、今 後の基礎研究の発展が必要と考える。 | 国の予算が逼迫していることは理解しているが、科学および科学技術の振興に対する国の積極的なサポートは、国民生活レベルの維持、向上にとって特に重要な施策であると考える。 | 人間社会の発展のブレークスルーは、歴史を振り返れば分かるように、科学技術の発展が契機となっていることが大部分である。小生はライフサイエンスに携わっているが、その中でも精神疾患は、今後の日本の労働力を考えた場合、解決しなければならない大きな問題である。 | | | | 0 | 0 | |

| | | | | 平成24年度アクションプラン案に対する | | 科学技術全般 | に対するご意見 | Al | こ関す | | 以23年 | | |
|----|-------|---------------------------------------|--------------------------|---|---|----------------|--|----|-----|-------------|------------|----------------------|--|
| No | 投稿 者属 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | | | | 3. グ リーン | 4. ラ イフ | 5. 基 6 礎·人 6 材 | |
| 28 | 公務員 | 1. アクションプランのねらい,2. 復興・再生並びに災害からの安全性向上 | した上で推進 | 方法が不透明。 社会調査などをとおした客観的な国民ニーズの把握を基礎として、優先順位や予算額の妥当性を担保すべきと考える。 | 今般の大津波についても、発生以前にスパー堤防建設に国民の理解が得られたか疑問である。 すなわち国民が理解できるような数値化(例えば被害額×頻度)をもとにニーズを把握する必要が | | 口蹄疫による被害額、宮崎県(201 0)は2,350億円、英国(2001)で 79兆円。最近の韓国での口蹄疫に 関連して、韓国科学技術企画評価院 は被害額に対し研究費が過少である との批判を提出している(聯合ニュー ス4月17日)。 | | 0 | | | | |
| 29 | 四十 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 「災害からモノ、情報、エネルギーの流れを確保し、創る」において、リスクコミュニケーションにおける情報収集・蓄積・分析の重要性が抜け落ちているので、再考して記載すべき。 具体的には、災害情報の伝達にでは、リスクコミュニケーションを円滑にする環境を構築することも重視すべき。特に、リスクコミュニケーションにおいては、適切な情報収集・蓄積・分析手段があり、専門家がその手段を活用して適切な情報を迅速に発信できることが重要である。 | このような二次災害を防ぐためには、災害時に限らず、情報安全保障、政策の最適化という観点でより情報通信技術を発展させ、情報の収集、蓄 | | | | 0 | | | | |
| 30 | 研究者 | 3. グリーン・イノ | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 自然エネルギーの研究開発を進めるのはよいことであるが、学者や企業に提案を任せきりにしないことが重要 過去この分野には相当な資金が投入されてきているが、ほとんど成果になっていない学者は勝手に我田引水をするし、企業では、経営と切れていた。計画・起案から最後まで見通す評価のプラットホームを創っておくことが重要 国研が役に立ちそうであるが、全く企業化、事業化については役に立たない 研究者・技術者のグリーンイノベーションへの覚悟のある参画を進めるためにも、研究マネージャーの教育から入るべきである | 過去この分野での ナショナルプロジェクト実行に 当たって、ファンディング側と研究開発実施側の、 目的・目標に関するベクトルがあっていなかったこ とが多い それを克服するためには、基本的な状 況把握と進むべき方向をプロジェクト全体で共有 化することが重要である その作業はCSRPが責 任を持って行うべきである 学問は自由であるが、 マネージメントは有限な人モノ金のリソースを有効 につかうことから行って制限があるのは当たり前 であるということをまず共有化することから入るべ きである | | | | | 0 | | | |
| 31 | 団体職員 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 地震災害時に必要な情報のより迅速かつ確実な 伝達について、在日、訪日外国人に対する視点が 抜けているのではないか。災害情報の伝達にお いては、あまねく人々が適切に情報を享受でき、 意思疎通がはかれる環境を構築することが重要 である。そのための科学技術開発は明記されるべ き。 | グローバル化が急速に進み、我が国の経済活動 においても訪日外国人の役割が重要となってい る。災害発生の際には当然、日本国民のみならず 訪日外国人のケアも重要であるが、今回の震災 においても訪日外国人は現地の人々と十分な意 思疎通が図れず、日本を離れることを余儀なくさ れた場合も多い。 このようなことを繰り返さないためにも、言語の壁 を越えて人々が適切に情報を享受でき、意思疎通 できるようにすることが重要であると考える。 | | | | 0 | | | | |

| | | | <i></i> | ア成24年度アクションプラン案に対する | | 科学技術全般 | に対するご意見 | Al | Pに関す | | <u> </u> | | |
|-----|---------------|--|--------------------------|--|---|---|--|------------|------------------|-------------|---|------------------|--|
| No. | 投稿 者属 性 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 1. ね らい | 2. 復 興·再 生 | 3. グ リーン | 4. ラ イフ | 5. 基 礎·人 材 | |
| 32 | 団体職員 | 振興及び人材育 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 安全で豊かな国民生活の実現に向けた知の資産 創出基盤の強化等、研究開発の基盤を重視すべ きである。 | 「基礎研究の振興及び人材育成の強化」における 「目指すべき社会の将来の姿」には、「安全で豊かな国民生活の実現への基盤を構築すること」、「知 の資産を創出し続けること」が謳われているが、今 回のアクション・ブランでは、これらの基盤的課題 を重視した政策課題や重点的取組が挙げられて いない。息の長い基礎研究を支える取り組みを具 体的に記載して推進すべきである。 | | | | | | | 0 | |
| 33 | 白 | 安全性向上,3. | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 加する。 13ページ 2-2政策課題「分散エネルギーシステムの拡充」 (2-2)重点的取組「エネルギーマネジメントのスマート化」 エネルギー需要と再生可能エネルギー供給量の両方を左右する気象条件を高精度かつ定量的誤 | る。また実質的なリスクマネジメントと対策のためには、予報誤差に関する情報が不可欠であり、これらの視点の欠如がSPEEDIによる予測が機能し得なかった大きな理由だったと考える。 | | | | 0 | 0 | | | |
| 34 | | 3. グリーン・イノ ペーション、5. 基礎研究の振興 及び人材育成の 強化 | した上で推進 | 原発の抑制により現在問われているのは、これを 代替しうる我が国の産業基盤を支える基幹エネル ギー源を如何に確保するかである。 再生可能エネルギーはその予想困難な時間的変 動の速さと大きさ故にスマートグリッド化も難しく産 業基盤エネルギーには向いていない。 低炭素化にも貢献しうる新たな基幹エネルギー開 発を並行して推進すべきである。我が国はこの分 野に於ける世界トップレベルの基礎研究実績を 持っており、これらを加速する施策を採るべきであ る。 | 中 戦略として極めて重要である。 再生可能エネルギーが有効に働くためにはエネルギー蓄積技術の進展が必須であり、その開発 を併せて推進すべきである。 一方基幹エネルギー源としては、核融合エネルギーが理想的であり、近年アジア諸国がその開発に力を入れているが、我が国はその研究開発では、現まを連続しているが、まかま、コキを加速すること | 科学技術政策のアクションプランとして、防災はともかく復興や再生は対象として捉えきれないのではないか。 | 防災に対しては、評価、予想、対処など、科学技術が先導できることが多々あるが、復興・再生に関しては、科学技術のみで対応出来ることではなく、行政の施策(考え方)や住民の意識やコミュニティー形成熟度にも大きく依存する。 | | | 0 | | 0 | |
| 35 | 会社 員 | 4. ライフ・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 再生医療の実現化にむけた細胞ソースとしてiPS 細胞のみを明記するのは不適切。諸外国に先駆けた社会還元を目指すならば間葉系幹細胞の研究も同様に後押しすべき。医師主導型治験について知識・金銭的バックアップが行える体制を具体的にすることが急務。 | ES細胞の臨床研究についてはフェーズ1終了まで10年近く必要。一方、間葉系幹細胞はある程度の安全性が確立されており、医師主導型の治験をスムーズに実施できれば約5°10年で保険収載可能な段階に辿り着ける可能性が高い。諸外国に先駆け再生医療を保険収載することで再生医療の先進国的地位を確保すべき。このアピールはIPS細胞への期待と信頼に大いに貢献すると考える。 | 全般を通じて研究費に関して国の補助が少ない。ポスドクの社会的地位も低く、ゆとり教育で育った世代を一人前の研究者に育てるには環境が劣悪。これからの10年は人材枯渇との戦いになる。日本の将来像を政府は強く打ち出すべき。 | る。グローバル化に対する意識が低く、国内ですべてが完結できると考えている若者が少なくない。アジア各国の経済成長は著しく、経済活動をマ | | | | 0 | | |

| | | | | マス・マンファ (O)・・ファファーテレー 平成24年度アクションプラン案に対する | | 科学技術全般 | に対するご意見 | Al | Pに関す | 現という | | |
|----|-----|---|--------------------------|---|--|----------------|---------|----|------------------|------|------------------|--|
| No | 投稿 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | | 2. 復 興·再 生 | | 5. 基 礎·人 材 | |
| 36 | 公務員 | 振興及び人材育 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | を支援するとあるが、地域に世界水準の研究拠点があるだけでは地域イノベーションは活性化しない。活性化させる「仕掛け」が提起されていないのは、アクション・プランとして全く不完全と言わざるを得ない。 | 水準に強化するために、組織体制をグローバル化 | | | | | | 0 | |
| 37 | 研究者 | 4. ライフ・イノ ベーション 5. 基礎研究の振興 及び人材育成の 強化 | このまま推進 すべき | ライフ・イノベーションの中で「心身ともに健康で活力ある社会の実現」に向けた重点的取り組みとして掲げられている、(2-3)「うつ病・認知症等の精神・神経疾患の初期マーカーの探索とそれに基づいた発症予防、早期診断、進行遅延」は、極めて重要な課題であり、優先的に推進すべきである。また、基礎研究の振興及び人材育成の強化の中で「独創的で多様な基礎研究の強化」に向けた重点的取り組みとして掲げられている、(2-2)「競争的資金に関する執行の柔軟性の向上、審査等の制度改革、国民への情報発信の強化」についても、積極的に取り組むべき懸案事項であると考える。 | 「うつ病・認知症等の精神・神経疾患の初期マーカーの探索とそれに基づいた発症予防、早期診断、進行遅延」は、社会的要請が極めて高いことに加えて、特に大震災における心のケアの問題とも密接に関連して、その解決は急務である。また、「競争的資金に関する執行の柔軟性の向上、審査等の制度改革、国民への情報発信の強化」は、血税で賄われている研究費を適切かつ有効に使用し、切磋琢磨して得られた研究成果を社会に発信・還元するために必要不可欠であると考える。 | | | | | 0 | 0 | |
| 38 | | びに災害からの | した上で推進 すべき | 「災害からモノ、情報、エネルギーの流れを確保し、創る」の政策課題についてです。 地震災害時などの被災状況の情報を正確に把握 力を的に、航空機の活用が有効です。また、航空輸送は鉄道や道路輸送と比較して、地震災害からの復旧が早く、被災初期の段階での物資輸送に航空機が活用できます。 そこで、このような航空機の活用をさらに促進するため、安全かつ統括的に運航管理ができるシステムの構築が望まれます。 このような点についても議論が必要と考えます。 | が望まれます。 そのためには、航空機搭載型の監視システム、地上で航空機からの情報を把握するための通信システム、危険事象を回避しながら航空機を目標地点に誘導する航法システムの改善が望まれます。 | | | | 0 | | | |

| | | | · / / · | ノ え [こ X] 9 | | 科学技術全般 | に対するご意見 | Α | Pに関す | | | 年7月 対象箇所 | |
|----|------|---|--------------------------|--|---|--|----------------------------|------|------------------|------|------|------------------|------|
| No | 投稿 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 1. ね | 2. 復 興·再 生 | 3. グ | 4. ラ | 5. 基 礎·人 材 | 3. そ |
| 39 | 会社員 | 1. アクションフ ランのもらい。2. 復興・再から3. に、生性・カー・イ・ラー・イ・ラー・イ・ラー・イ・ラー・イ・ラー・イ・ス・基礎びん。3. フ・ケー・カー・ケー・カー・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大 | このまま推進 すべき | 1.アクションプランのねらい 記載通りの4つのテーマにてこのアクションプラン を推進するべきだと思います。 2.復興再生並びに災害からの安全性向上 早期に効果が表れる研究開発を行うという対応 に推進すればよいと思います。 3.グリーンイノベーション 記載通り、研究開発によりさまざまなエネルギー 関連技術革新を起こすべきと思います。 4.ライフイノベーション 記載通り、人の心身の健康への取り組みを推進 すること望みます。 5.基礎研究の復興及び人材育成の強化 記載の通りの取り組みを推進すること望みます。 | 1.現在技術動向として注目されている、「災害」「エネルギー」「ライフサイエンス」「基礎研究」をテーマとしているため。 2.震災復興という観点から開発スピードが要求されると考えるため。 3.現在エネルギー関連技術はさまざまな企業、研究機関で行われているので、その開発速度を高め、革新を起こす必要があると考えるため。 4.現在ガンによる死亡率が高くなり、これを対策する必要があることと、心の問題も現在注目されていると考えるため。 5.基礎研究と人材育成が国内で弱くなっていると考えられるため。 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 40 | 研究者 | 4. ライフ・イノ ベーション | | 特に精神疾患の病態や病因を解明するため、あるいはその治療法や診断法の開発を促進するための研究を推進する際には、精神疾患の医療現場で自身やその家族あるいは精神疾患の医療現場で働く者からの要請を出来る限りくみ上げ、その要請に応える為の研究計画を組んでいくべきである。そして、研究計画や成果の審査を行う際にも、当事者やその家族のために役立つかどうかを最優先して審査を行うべきである。 | ヒトの精神機能や高次機能を研究する上で精神 疾患の当事者を研究する方略は重要で魅力的で あり、大きな研究成果をあげる可能性を持つ方略 である。しかし、精神疾患は当事者や家族、更に は社会全体にも大きな損失を招く上に、しかも十 分な診断方法や治療法が開発されているとはい えず悲惨な状況にある。そのため、この悲惨な状 況から考えれば、ヒトの精神機能や高次機能解明 の為に精神疾患研究が利用される前に、まずは 精神疾患の当事者や家族の利益を最大限にする 方向で考えるべきである。 | | | | | | 0 | | |
| 41 | 研究者 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | このまま推進 すべき | いずれも重要な施策である。広い意味での基礎研究の振興、人材育成は国家の重大なミッションである。 | 人材育成は未来の発展を促す重要な投資である。少子化の傾向はまだまだ続く。自分たちの子供の世代、孫の世代の生産性を高めるためにも、広い意味での人材育成は重要である。 | 原発問題の根本は、大学や研究機関において、原子カエ学科などが維持されず、新味を求めて推移してしまい、原子カエ学の知の継承がきちんとなされなかったことにある。スクラップ&ビルトという考え方だけでは、大学の基礎研究の維持はできない。 | | | | | | 0 | |
| 42 | 団体職員 | 1. アクションプ ランのねらい | 改善・見直しを した上で推進 すべき | | 1) ・p.3の「復興・再生…」の表について。政策課題と放射線物質による影響の組み合わせが不適なため、放射性物質による影響の部分が論理的な構成になっていない。 ・地域コミュニティーの維持や流通の確保は別の枠で検討すべきである。 ・最も重要な「命を守る」に放射性物質の列に対応するのは「住民の不安を軽減」ではなく「放射性物質の除去」であるべき 2) p.3 再生可能エネルギーの産出に対応した原発脱却プランがなければ片手落ち | 「安全に暮らせる社会」、「質の高い 国民生活」に引きずられて、「科学技 術」が答えるべき要素の抽出ができ ていないと見受けられる。 | 「科学技術」の内容の定義が欠けているからではないか。 | 0 | | | | | |

| r' | | 「一」又 | <i>/ </i> | ノ余 I こ X J 9 の ハ ノ リツ ノ コ ア ノ ト ⁻ 平成24年度アクションプラン案に対する | | 科学技術全般 | に対するご意見 | AP | に関す | | <u> </u> | 7月14日 象箇所 |
|-----|---------------|---|--|--|---|----------------|---------|------|-------|--------|----------|-------------------------|
| No. | 投稿 者属 性 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | | 1.ね2 | 2. 復(| 3. グ 4 | . ラ 5 | . 基 6. そ き・人 の他 す |
| 43 | 団体員 | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | (意見1) P. 15の8行目の「高効率熱交換」を「ヒートポンプ」に置き換えることが適当と考えます。 | (理由1) 〇ヒートポンプは我が国が世界に誇る世界最先端の省エネ技術であり、今後も、新規冷媒の開発、高性能熱交換器などの革新的要素技術の開発において、国による研究開発の取組が必要と考えます。 〇答申「科学技術に関する基本政策について」(見直し案)でも、「エネルギー利用の高効率化及びスマート化」の項目に、「次世代型ヒートポンプシステム」の記述が入っております。 〇P. 15の8行目の前後の文脈「ゼロエミッション住宅・オフィス、高効率照明、・・・情報通信機器」が、最終的な製品や機器を表す言葉であるため、これと平仄を合わせることが適当と考えます。 | | | | | 0 | | |
| 44 | 団体員 | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | (意見2) P. 14の3行目の「多様な再生可能エネルギー、コジェネレーション等」に「ヒートポンプ・蓄熱システム」を追記することが適当と考えます。 (意見3) P. 11、13の文中の「蓄エネルギー」を「蓄エネルギー(蓄電・蓄熱)」に置き換えることが適当と考えます。 | (理由2) 〇地中熱などの再生可能エネルギーを利用し、電力を熱に変換して蓄える「ヒートポンプ・蓄熱システム」は蓄電技術と同様に、スマートグリッドにおける重要な要素となります。IEAが5月に公表したEnergy-efficient Buildingsの技術ロードマップでも「スマートグリッドと接続した統合ヒートポンプシステム」が挙げられており、例示に追記することが適当と考えます。 (理由3) 〇蓄エネルギーのイメージが分かりにくいため、具体的な補足説明を付記することが適当と考えます。 | | | | | 0 | | |
| 45 | 研究 者 | 3. グリーン・イノ ベーション | このまま推進 すべき | 「技術革新による再生可能エネルギーの飛躍的拡大」に重点的に取り組むことに、全面的に賛成する。その上で、「再生可能エネルギーの経済性を世界トップレベルに高めるための技術開発」の一例として、「風力発電装置(風車)の大容量化(5 MW 以上)」を取り上げていただきたい。 具体的な開発課題としては、超電導技術を用いた超軽量発電機、炭素繊維強化プラスティックを用いた高剛性・軽量ブレード、2枚翼高速風車技術などがあげられる。 | 制約や騒音問題などが無い洋上風力発電の開発 | | | | | 0 | | |
| 46 | 四件 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | このまま推進 すべき | 科研費の一部研究種目で実現している「基金化」 を、他の研究費目および他の助成制度においても 推進していただきたい。 | 単年度会計の制約を解消することで、研究者の研究活動への専念が可能とな理、結果として研究パフォーマンスの向上が期待できるから、「基金化」はすでに一部の競争的資金において採用され、顕著な効果が明らかになっていることから、早期の実現を要望したい。 | | | | | | | 0 |

| | | | <i>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </i> | ノ余 I こ XI 9 の ハフ リツク コ ア ノ ト 平成24年度アクションプラン案に対する | | 科学技術全般 | に対するご意見 | Α | Pに関す | | 成23年 意見の対 | | |
|----|------------------|---|---|---|---|--|---|-----|------|------|--------------|---|------|
| N | 投和 3. 者属 性 | こ意見の対象と | ご意見の概要 | | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 1.ね | | 3. グ | 4. ラ | | 6. そ |
| 4 | · 会社 | : 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 現在の案は非常に評価できる内容であると考えます。 ただし、以下の点をさらに推進していただきたいと 考えます。 「クリーンエネルギー供給の安定確保/技術革新 による再生可能エネルギーの飛躍的拡大」にバイ オマスエネルギーも含まれると思います。是非こ の取り組みを推進していただきたいと思います。な く化学品のバイオマス原料の利用が重要であり、 その技術開発の支援を是非検討していただきた いと思います。また、バイオマス資源の入手、有効 活用のために、アジア地域での国際的な連携を構 築し、技術開発することも重要と考えます。 | バイオマス利用への取り組みは精力的に行われてきており、成果も出つつありますが、日本国内ではバイオマス用によるエネルギー供給には限界があると思います。日本の強みは化学品の生産や加工であると思います。そこにバイオマス由来原料を利用することを推進することが世界をリードすることに成ると思います。 | 世界有数の技術を生み出すために、 理系離れを防ぐ必要があります。まず、理科系の教育に力を入れるへき であると思います。私立大学での教育費の理系と文系の差異をなくす必 要があります。博士課程進学者の生活を助成や要学金制度の充実、安 達させる必要があります。また、製業のステイタス向上が必要(例えば 所得)と考えます。これらのために国 としての日本の得意分野を伸ばすための政策が必要であると考えます。 | 若者の理系離れが顕著であると思います。日本という小国は技術力で世界をリードしてきたが、将来非常に不安になる状況であると考えます。しかし、現在の教育状況では理系はお金がかかり、将来も明るいとは言えません。 | | | 0 | | | |
| 4: | 3 学生 | 4. ライフ・イノ ベーション 5. 基礎研究の振興 及び人材育成の 強化 | | ・ライフイノベーション:現在の案は非常に評価できる内容であると考えます。 しかし、子供の医療費サポートに加え、技術開発の面では、子供の病気治療に役立つ、例えば免疫系疾患、小児がんの治療の技術開発推進を望みます。 ・基礎研究の振興及び人材育成の強化:「世界トップレベルの基礎研究の強化」と「独創的で多様な基礎研究の強化」は非常に重要です。そのための重点的取り組みも納特できる内容と考えます。さらに、研究者が研究に専念できるようなサポート体制の強化を望みます。特に技術を理解できるオーガナイザーの人材育成が必要であると考えます。 | ・ライフイノベーション:これらの施策は高齢者対策にやや比重がかけられすぎているように思います。少子対策、将来の日本を背負う子供の医療のサポートが非常に重要であると認識します。・基礎研究の振興及び人材育成の強化:現在、最先端研究支援プログラム等ではその主旨に基づいてサポート体制が組まれてはいますが、実際、中心研究者が研究だけでなく運営の舵取りを担っている例が多く見受けられるように感じます。事務処理はそれなりのサポート体制ができているように思いますが、技術のわかるオーガナイザーの人材が不足しているため、中心研究者に運営の負担がかかっているように思います。 | | | | | | 0 | 0 | |
| 4: | 公科員 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | | 様々な教育プログラムが計画されていますが、現在大学で最も深刻な問題は研究室単位での大学院学生の教育の充実です。研究室には助教の数がひと昔前よりも少なくなり、中堅クラスの指導資不足のため、大学院学生にとっては、学生相談空に指導を十分してもらえないという悩みがかなり室教育の重要性をもっと深く認識し、それを根本的に解決できる手段を講じる必要があります。これは全国的な共通の問題であり、教育コログラムだけいじくっても、教育研究の現場では、この問題は残されたままです。研究室の教育システムから規り下げた対策が緊急に必要であることを痛感しています。 | 中央教育審議会答申による体系的大学院教育プログラムよりも、旧来の研究室教育の方が評価が高いというアンケート調査に関する論文"大学評価学位授与機構の「大学評価?学位研究 第12号平成23年3月発刊の研究室教育再考一理工系大学院の教員意識調査の分析一"が橋本弘教授らによって報告されています。この研究室教育の質をいかに高めるかとして、試案ですが、企業の卓越した将来有望な若手研究者を魅力ある大学の教員ボスト(産学連携教員)として積意義大学の教員ボスト(産学連携教員)として積意義な計論と助言ができる人材を確保する。それによって、ボトルアップで研究室の質が向上できるものとで、ボトルアップで研究室の質が向上できるものに、ボトルアップで研究室の質が向上できるものに、ボトルアップで研究室の質が向上できるもあり、入学料を支払わなければならない単なるもあり、入学料を支払わなければならない単なる中の場合で大学にくる研究者は激減しています。産学連携そより強固に推進するには、このようなポストの創成をより国家的に支援する仕組みの導入が必要と思います。 | | | | | | | 0 | |

| | | | | マス・マン・マーク ファーク ファーター 平成24年度アクションプラン案に対する | <u>- 5</u> 2 ご意見 | 科学技術全般 | に対するご意見 | AP | に関す | | | <u>- / 月 14 口</u> 象箇所 |
|-----|-------|--|---------------|--|---|----------------|---------|-----|------|---|--------|---------------------------|
| No. | 投稿 者属 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 1 | 1.ね | 2. 復 | | 4. ラ ! | 5. 基 6. そ |
| 50 | 会社員 | 4. ライフ・イノ ベーション | このまま推進 すべき | がんの早期診断・治療に必要な新しい医療技術 (医療機器)の評価技術の開発をレギュラトリーサイエンスをベースとして推進されることを期待する。また医療技術・医療機器の開発段階で必要なガイドラインだけでなく、最終的には薬事承認審査を見据えての審査ガイドラインの両方の視点からの検討を希望する。 | 国際競争力がある日本の医療分野として、がんの診断や治療が上げられる。この分野での新しい診断方法や治療方法を開発し早期に実用化するために、開発評価基準や薬事審査基準は重要である。 | | | | | | 0 | |
| 51 | 功力 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | このまま推進 すべき | 1. 科研費の基金化については遅すぎたきらいはあるものの大賛成。是非進めていただきたい。2. 府省間の公的資金執行に関する共通化も検討中のはずであるが、こちらも是非進めていただきたい。3. 間接経費の扱いについて、財務省、国会議員、産業界の理解が得られていないようであるが、大学が研究施設を維持するため、また研究成果の普及にも必ず必要な経費であるから、これも議論の上計上できるようにしていただきたい。 | 科研究費は、欧米ではAwardと言われるように審査の上授与されたものであり、研究者のプレゼンスそのものと考えていただきたい。これまで、財務単年度会計にこだわるあまり、研究の効率化は税して経理を行っていたわけであるが、これは税金の無駄遣い以外の何ものでもなかった。今回の施策によって、研究者の成果普及の責任と共に更なる研究の効率化が期待できる。 | | | | | | | 0 |
| 52 | 班先 | びに災害からの | した上で推進 すべき | 復興・再生にあたって、安全で豊かで質の高い国 民生活の実現に、文化的観点が見られないことが 気になります。歴史に基づくまち並みの景観や色 彩、屋外広告物の管理など、ソフトに関する専門 家の参加は欠くことが出来ないと思います。これら のことは、とかく緊急時には軽視されがちです。歴 史の継承や新しく美しい町や村づくりに、住民が 関わることで得られる、精神的高揚感は生きる希 望につながると考えています。 | 屋外広告景観形成やサイン計画、色彩計画などは環境デザインの中では、マイナーエレメントと考えられますが、まちや村のイメージに与える影響は極めて大きなものです。また、たとえば安全な交通環境の再生には、心理的交通沈静化、shared spaceなど、欧米で展開される新しいコンセプト(EUが支援)の導入が考えられます。これは日本人の文化性にそぐうものです。健全なコミュニティ再生の観点からも、ソフトなデザイン手法の導入を期待します。 | | | | 0 | | | |
| 53 | 員 | 3. グリーン・イノ ベーション 4. ラ イフ・イノベー ション 5. 基礎 研究の振興及び 人材育成の強化 | | グリーン及びライフイノベーションの創出あるいは基礎研究の振興及び人材育成の強化のため、各地域に蓄積されたさまざまな知見、ノウハウを機動的に活用するとともに、地域産学官連携によるクラスター施策を発展的に活用した研究機能・人材集積の形成とそれらの連携促進が必要であり、そのための各地域に向けた支援施策の拡充が重要である。 | グリーン及びライフイノベーション日本を再度活性化する大きなテコとなる政策であり、これまで各地域において産学官連携によるクラスター施策を展開し、様々な知見やノウハウを蓄積してきた。こうした成果を戦略的に利用する必要がある。また、対象分野が多岐にわたるため、早期の実用化には各地域に蓄積されたさまざまな知見、ノウハウを機動的に活用することが重要である。更に、基礎科学のより一層の追求とともに、分野横断型の研究を同時進行で行い、多角的な検討を加える必要がある。 | | | | | 0 | 0 | 0 |

| _ | 一八人 | 4十段プラ | フョン ノ ノ. | ン条に対するハブリックコメントー | = - | | | | | | | 7月14日 |
|----|-----------|---|--------------------------|---|---|----------------|---------|------------|------------------|------|---------------------|----------------------------|
| | 投稿 | | 1 | 平成24年度アクションプラン案に対する | ご意見 | 科学技術全般 | に対するご意見 | | | | | 象箇所 |
| No | . 者属 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 1. ね らい | 2. 復 興·再 生 | 3. グ | 1. ラ 5 イフ 磁 木 | 5. 基 6. そ 歴・人 の他 オ |
| 54 | 団体職員 | 1. アクションプランのねらい、2. 復興・再生並びに災害からの安全性向上、3. グリーン・イノ基礎びリーン・5. 集異ない人材育成の強化 | した上で推進 すべき | 1. 復興・再生並びに災害からの安全性向上の項では、これからの日本にとって科学技術からみるとにこれから起こりうる災害の予知とその備え」が第一と感じます。 2. グリーンイノベーションの項では、どう科学技術が関わり貢献するのか不明です。具体的な一歩を進めるための納得できる方向付けが必須です。 4. 基礎研究の振興及び人材育成の強化の項では「基礎研究の振興」にほとんどの記述が振り向けられ、それを支える「人材育成」についての記述が乏しい。しっかりした展望に基づく人材育成の記述を強く望みます。 | 東日本大震災の現状を復興するために〈〈科学技術に求められていること〉〉は、新聞で日々書かれていることをそのまま繰り返すことではなく、〈〈科学知識に基づいた国民を納得させる指針〉〉であるべきです。科学知識を最大限に活用し現時点で問われていることは何か、それに応えられる科学技術は何が今あり、そして不足しているのかを真剣に問い直し、〈〈具体的な方向を指し示す〉〉ことこそ今なすべきことだと考えます。 | | | 0 | 0 | 0 | | 0 |
| 55 | 研究者 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 震災復興担当大臣が替わろうが、やるべきことを もっと迅速に進めてほしい。 | 地道な復旧・復興のステップが被災地でも伝わっ てこない。 | | | | 0 | | | |
| 56 | 会社員 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | このまま推進 すべき | 日本は地震や台風と言った自然災害に多く見舞われる国土状況であることから、災害からの安全性向上に役立つインフラ整備が焦眉の急であると考える。 | 具体的には、地震及び津波等の自然災害の被害を迅速に把握するためのインフラとして、人工衛星ALOSの後継機をシリーズで国家として保持すべきである。 | | | | 0 | | | |
| 57 | , その 他 | 1. アクションプ ランのねらい | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 震災の影響があったとは言え、我が国のかかえる 大きな課題、少子高齢化、TPP等のグローバル 化への対応、地球温暖化の抑制、財政再建の必 要性などは、震災前となんら変わっておらず、逆 にその課題の顕在化が加速し、政策の選択肢も 狭まりつつある。 その中で、例えば、これまでエネルギーと環境の 両面から重点的な国家投資の対象であった原子 力発電にかかわる記述がほとんど見えない等に 力発電にかかける記述がほとんど欠年度に向け た政策課題や重点的取組が決められている印象 を排除できない。我が国の抱える中長期の課題の 解決に広く資する科学技術投資の指針を期待す る。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | 0 | | | | |
| 58 | その 他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 全体に共通した指摘として、災害の時だけ機能する仕組みの構築は、維持、コスト負荷、プライオリティ等、時間と共に風化する恐れもあり、なかなか定着しない危惧がある。常に機能する仕組みを作り、災害時もそれがそのまま維持できるという「安心」を国民に与える分野への投資がきわめて重要である。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | |

| | T 170 | 27千 皮 ノ ノ . | <u> </u> | ノ余に刈りるハノリックコアノト | | 되쓴++4· Λ án | / | A D.1 | -88- | | | /月14日 |
|---|------------|-------------------------------|--------------------------|---|----------------------|----------------|---------|--------------|-------|-------|-----------|-------------|
| | 投稿 | 一一一 | | 平成24年度アクションプラン案に対する | ⊂ 思兄 I | 科子技術全般 | に対するご意見 | | | | 見の対象 | |
| N | o. 者属 性 | こ 息兄の対象と | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | . ね Z い 男 | . 復 3 | . ク 4 | フ 礎・ オ | 基 6. そ 人 の他 |
| 5 | 9 その 他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 東日本大震災は、我が国の科学技術政策へのこれまでの投資が現実にどのような形で、国民の生命や財産を守る役にたったのか、ということを問いかけている。まずは、災害の現場において何が起き、何ができて、何ができなかったのか、その「FACT」をしっかりと把握することが、今後の防災や復旧・復興の政策を考えるスタートであるべき。情報の散逸や風化を避けるためにも、全科学者がこれに緊急に取り組む必要性を明記すべき。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | |
| 6 | o 他 | びに災害からの | した上で推進 すべき | 安全という言葉が多用されているが、今、安全という言葉の信頼性が問われている。政府の最大の責務である国民の生命、財産の保護に対する信頼回復のためには「安全」に加えて「安心」というキーワードが重要である。ともすれば、自然科学者に、定量的に計測、検証し得る「安全」の基準を重視し、定性的な人々の悩みや不安を、納得や満足という「安心」に導くことを軽視する傾向があるのではないか。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | |
| 6 | f その 他 | びに災害からの | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 「国の定めた安全基準の範囲内であるので、直ちに健康へ影響を与えるものではない。」との説明が必ずしも国民の安心にはつながらず不安を助長したことは記憶に新しい。自然科学と、人文科学や社会科学との融合による社会課題の解決という国民の生活に直結したイノベーションを実現する重点的な取り組みが強くもとめられる。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | |
| 6 | 2 その他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 今回の震災とそれに続く事故からの教訓は、科学技術の不完全さであり、また特定の想定のもとでの防災や復旧の対策が想定外には対応できなかったということである。アクションプランでは、まだ、地震、津波、放射性物質による影響と特定の災害に対して特定の防災技術や復興のために必要な技術という縦割り的な発想が強い。災害の原因や規模がどうあっても、社会や産業が機能不全を起こさないような回復力に富む(Resilient)社会システムの構築に関する技術分野への投資が必要である。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | |

| | | | , , , , , , , , , , , , , , , , , , , | ノ 余 (〜 X) 9 の ハ ノ リック コ ア ノト ー 平成24年度アクションプラン案に対する | | 利学性怎么飢 | に対するご意見 | ۱۵۷ | 一問士 | | 723年 | ·/ | |
|----|----------|---------------------------------|---------------------------------------|---|----------------------|----------------|---------|-------|-------|-------|-------|-----------------------|-----|
| N | o. 者 | 帚∥∟思見の対象と | ご意見の概要 | | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 1 | . ね 2 | ! 復 3 | . グ 4 | . 5 5 | <u></u> 基 6. を・人 の | . 7 |
| 6 | 3 そ 他 | 0 復興 玉井社 | | 産業分野でのロボットは、市場の形成がなされていることから我が国の技術の先進性が生かされ事業化もされている。しかしながら、万一を想定した災害対応ロボットについては、試作機レベルの開発は行われるものの、実際の配備や操作員の日常からの訓練が行われておらず、原発の事故現場にまず投入されたのは海外のロボットであり、日本に技術はあっても役に立たないという現実が改めて明らかとなった。 国民の生命を守る災害対応ロボットの開発と運用システムの必要性をしつかり書き込むべきである。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | | |
| 64 | そ 4 他 | D 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | <政策課題:災害から命・健康を守る> ○災害時医療支援基盤の整備とその機能検証○広域での医療情報の連携、診療目的での医療情報の参照を可能とする医療支援基盤を整備することが必要。被災地を特区として、被災者に電子発行し、本人確認の仕組み、セキュリティ・プライバシーの確保、匿名化技術等、「税・社会保障の共通番号制度」で想定されている個人番号制度の機能検証など、出口の見えるシステムを前倒しで実行する政策への重点的な取り組みを求める。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | | |
| 6: | 5 他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | <政策課題:災害から命・健康を守る> ○原子力発電の安全性向上に資する研究開発の促進○災害から命・健康を守るために、放射線モニタリング、放射性廃棄物・汚染水の除去・処理・処分の関する研究開発や、廃炉まで視野に入れた災害ロボットの研究開発、実用化は喫緊のアクションプランである。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | | |
| 6 | 6 他 | D 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | く政策課題: 災害から命・健康を守る>情報伝達については、非常用の情報伝達ではなく、常に現地に役に立つ情報の提供インフラを作り、それを利用する習慣を作ることで初めて機能できるものとなる。本人認定では、共通番号制度の導入等とも密接に関連するが、生体認証と併せた登録により、災害時の個人認定が極めてやりやすくなるシステムも併せて研究するべき。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | | |

| | 1 170,4 | - - 一 | <u> </u> | ン 未 (こ X) 9 る ハン リックコアント 平成24年度アクションプラン案に対する | | 利尚什尔人加 | ニ対するご音目 | Α. |)1-月日-1 | | | 7月14日 9年記 |
|----|-----------|-------------------------------|--------------------------|---|----------------------|----------------|---------|-------------|------------------|-------|------------|-----------------|
| | 投稿 | ご辛日の社会し | 1 | 平成24年度アクションノフン条に対する | ∟思兄 | | こ対するご意見 | | | トるご意見 | | |
| No | 2. 者属性 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 1.12 611 | 2.1g 興·再 生 | リーン イ | . フ 礎 オ | 基 6. そ ・人 の他 |
| 6 | 7 その 他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | く政策課題:災害から命・健康を守る> 放射性物質については、放射線種類、半減期、体内蓄積、日常浴びている放射線の量、等々、まずは基礎的情報について(学者による判断差の無い事実情報)を分かりやすく示すこと。このことと、被爆と病気の関係といった、あくまで過去のデータのみでの判断(これこそ学者による意見の差が大きく、このことが風評被害と相俟って混乱を生じさせている)についての扱いをはっきり分ける必要性を明記する。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | |
| 68 | その 他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | く政策課題:災害から命・健康を守る> 放射線の人体への影響やその判定と治療が、国民の安全・安心面での大きな関心となっている。人体の放射線被曝について、どのくらいの量でどのくらいの影響が出るのか、これまでは職業として被爆のリスクのある少数の人員が対象であったが、今後は一般の市民を対象とした判定手理として、線量管理だけでなく、生物学的被爆管理(例えば、遺伝子、タンパク質の変異、発がん可能性)に関する研究が望まれる。また、多数の被爆者の治療法の開発も必要である。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | |
| 69 | その他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 〈政策課題:災害から仕事を守り、創る〉 製造業の全企業が独自で完璧なBCPを実施する ことはコスト競争面から考えても非現実的である。 一方、今般、サプライチェーンの脆弱性が指摘されたのも事実であり、特に中小企業については、 災害時にのみ他企業と緩い連携が取れるような 社会的なシステムを事前に考えていくような社会 科学的な研究も必要ではないか。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | |
| 70 | その他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | く政策課題: 災害から住まいを守り、造る>住まいというのが、物理的な住まいだけになっていて、堅固にすることだけに目が言っていないか。どんなに堅固にしても想定以上の災害については守れない。住居が大事なのは、建物に加えて、その中にある資産(通帳、円鑑、常備薬、思い出につながるもの = 逃げ遅れの原因にもつながるもの)であり、そしてそこでの安全な生活そのものであった。個人資産を守る仕組み(たとえば、情報ならクラウド化、薬のようなものについては集団での常備の仕組み)を研究していかなければいけない。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | |

| = | 1126.4 | サータノノ | <i>/ 1 / / / / / / / / / / / / / / / / / /</i> | ノ系に刈りるハノリックコメント | | 되쓴++æ· Λ án. | - N+ 7 = 产日 | | V - 88 - | | | F7月 | |
|-----|---------|-------------------------------|--|---|----------------------|----------------|-------------|------------|------------------|-----------|---------------------|------------------|--------|
| | 投稿 | | 1 | 平成24年度アクションプラン案に対する | - 思兄 | 科字技術全般! | こ対するご意見 | | | するご意 | | | |
| No. | 者属 性 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 1. ね らい | 2. 復 興·再 生 | 3. グ 4リーン | i. フ ; ſフ { ア | b. 基 礎·人 材 | 0. その他 |
| 71 | その 他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | <政策課題:災害から住まいを守り、造る>安心した生活というのはたとえば、避難所の作り方、運営、仮設住宅の作り方、といった点について、個人の安心を守るという観点での社会、人文科学的な研究を日常からしておく必要があるのではないか。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | | |
| 72 | その他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | く政策課題:災害からモノ、情報、エネルギーの流れを確保し、創る> 今回の震災においては、有線無線の基幹のネットワークサービスの脆弱さが明らかとなり、ツイッターなど無償の簡便なサービスの機能が維持されるなど、これまでのICTの強靭性に関する前提が大きく見直される結果となった。情報の流れで、災害時に一番切りたい情報は、家族の安否であった。このため、回線がオーバーフローしたわけであり、家族同士の安全情報伝達手段を日常の情報交換手段として定着させていく社会システムが重要課題。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | | |
| 73 | その 他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | < 政策課題: 災害からモノ、情報、エネルギーの流れを確保し、創る> 今般、電力不足から発生した計画停電については、実施面での問題をたくさん露呈した。納得性のある計画停電の仕組み、技術的課題についても、研究をしていく必要があるのでは無いか。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | | |
| 74 | その 他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | < 政策課題: 災害からモノ、情報、エネルギーの流れを確保し、創る > これまでの常識にとらわれることなく、人工衛星、車車間通信、分散電源など、あらゆる手段を想定した災害時の利活用も重要な研究対象となるべきである。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | | |
| 75 | その他 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | <政策課題:災害からモノ、情報、エネルギーの流れを確保し、創る> 人々に「安心」を提供するインフラとしてのICTの利活用、すなわち、風評に惑わされない正しい情報の発信、さまざまな「見える化」技術、「次に起こるべき予測」技術の推進、そのためのリアルタイム性を備えたシミュレーション技術の推進が不可欠である。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | 0 | | | | |

| | | ·¬ 一 及 / / / | / | ノ余 I こ X I 9 の ハフ リツクコアント 平成24年度アクションプラン案に対する | | 科学技術全船 | に対するご意見 | Д | Pに関っ | | | F7月14 対象箇所 | |
|----|-----------|----------------------------|--------------------------|--|--|----------------|---------|-----|------|---|--------|----------------------|------------|
| No | 投稿 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | | 1.ね | 2. 復 | | 4. 5 5 | 5. 基 6 礎・人 の 材 | . <i>そ</i> |
| 76 | 団体職員 | 振興及び人材育 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 初等中等教育における国全体として体系的に取り 組む理科教育支援に関するアクション・プランを盛 り込んでほしい。 | 科学技術立国日本の再生には、子供たちの理科 離れを防ぎ、理科好きの子供たちを多く育てること が極めて重要と考える。今回のアクションプランに は、初等中等教育段階での施策が全く盛り込まれ ていない。産業化、各学協会、独立行政法人、地 方行政などでは、個別に子供たちあるいは理科教 師対象の理科教育支援事業は実施されており、 最近、国としての強いメッセージが感じられず、体 系的な 施策になっていない。 | | | | | | | 0 | |
| 77 | , その 他 | 3. グリーン・イノ | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 今回の震災と津波による原子力発電所の事故は、安全、防災、減災の観点で、原子力発電を支える科学技術が不完全であったことを示している。わが国のエネルギー政策のみならず、科学技術政策に対して大きな課題を提起していることは明らかであり、それに対する取り組みが明示的に示されていないのはあまりに不自然であり、科学技術政策にかかわる関係者の見識が問われかねない。今こそ、広てエネルギー供給の一手段として、原子力の利用に関する知見を集めるべきである。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | | 0 | | | |
| 78 | その他 | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 日本国内での新たな原発立地は、新エネルギー政策との関連で検討されるべきであるが、現有炉の安全稼動は社会経済的に不可欠である。また、世界的視点では新興国のエネルギー需要の増加の中でCO2の排出削減を図るために、当面は原子力発電の需要は高いものと想定される。我が国の成長戦略の中でも重要な位置を占める位置づけは変わっていない。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | | 0 | | | |
| 79 | その他 | 3. グリーン・イノ | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 今回の原発事故で世界に多くの迷惑をかけた我が国としては、より安全な原子力発電の実現に向けて研究開発を加速し、その成果を世界各国に還元していくことが求められており、ある意味で我が国が果たすべき国際的な責務であるとも言える。 国内での新規原発の立地はエネルギー政策や原子力政策の方向性を見据える必要はあるものの、安全な原子力発電の早期実現を目指した研究開発は、むしろ加速すべきである。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | | 0 | | | |

| | | | , , , , , , , , , , , , , , , , , , , | ノ 余 I 〜 刈 9 の ハ ノ リツ ク コ テ ノ ト ー 平成24年度アクションプラン案に対する | | 科学技術全般 | に対するご意見 | А | Pに関っ | | 成23年 意見の対 | | |
|---|---|-----------------------------|---------------------------------------|--|--|--|--------------------------------------|-----|------|------|--------------|---|------|
| N | 2. 2. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 1.ね | | 3. グ | 4. ラ | | 6. そ |
| 8 | 0 その 他 | ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | エネルギー政策に関する科学技術の貢献は、単に国のエネルギー政策の実現の手段としてのみならず、社会システムに出口をもつイノベーション政策として、原発の停止による電力の不足を自然エネルギーの供給でどこまで埋めうるのか、国や国民が耐えうる負担で実現できるのかなど、時間と規模とコストの観点で、科学技術面からエネルギー政策に提案を続けていくという姿勢こそが重要であるが、今回の案ではそれが見えていない。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | | 0 | | | |
| 8 | 1 研究 | ボのみル 6 え | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 究費の使途に関しては、より自由度をもたせること | 業務にも忙殺されているのを傍目で見ている若手 (学生)らが、とても"研究が楽しい"とは思えず、 研究者を志す者の数が減っているということであ | て: 研究は、その進展が予測不可であるという特徴を有する。 従って、研究の進捗の区切りを年度とすることは、研究の推進に弊害を及ぼすことが少なく無い。この認識がある程度認められるようになって、現在限られた科研費だけが、年度を繰り越して | 現在の研究補助制度は、研究成果を得るための最善の施策となっていないため。 | | | | | 0 | 0 |
| 8 | 2 その 他 | 4. ライフ・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 目指すべき社会の姿を「心身ともに健康で活力ある社会の実現」とうたいながら、政策課題が医療に偏っており、多くの健康な高齢者が社会の中で生産的に生きがいをもっていきていくための政策がほとんど取り上げられていない。高齢者が就業や社会活動を通して新しい需要の創造や供給に寄与することは、我が国の成長戦略にも大きく貢献するが、重点的取り組みの対象は、医療や介護の必要な高齢者や障がい者に関するものでしかないのは著しくバランスを欠いている。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | | | 0 | | |
| 8 | 3 他 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 科学・技術が社会の中に実装され貢献するという成果を目指しているはずの我が国の科学技術政策の中で、何ゆえ、基礎研究のみを冠した「基礎研究の振興及び人材育成の強化」という項目が重視されるのであろうか。スコープを広げ、基礎研究に限定せず、応用研究、実用研究、イノベーション創出研究までをカバーすべきである。 | | | | | | | | 0 | |

| | | .マ イ・1又 | / 1 / / J | ノ余 I - XJ 9 の ハノ リツクコテント 平成24年度アクションプラン案に対する | | 利学性练合帆 | に対するご意見 | Α. | 01-即- | | ₹7月1 対象箇所 | |
|----|---------|-----------------------------|--------------------------|---|----------------------|----------------|---------|-----|-------|------|----------------------|------|
| No | 投稿 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 1.ね | 2. 復 | 4. ラ | 5. 基 6 礎·人 6 材 | 3. F |
| 84 | その 他 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 原発事故の発生以来、我が国の情報の公開と発信に対して、国内はもとより海外からも不満、不安、あるいは懸念の声が報じられている。このことは、他の科学技術分野に対しても同様であり、以下の観点から重点的な取り組みが求められる。 *国民全体の科学技術基礎力あるいは科学技術リテラシーの不足に起因する理解不足や誤解を最小化するため、国は国民の科学技術への理解を促進する政策を推進すること。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | | | 0 | |
| 85 | その他 | 振興及び人材育 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 原発事故の発生以来、我が国の情報の公開と発信に対して、国内はもとより海外からも不満、不安、あるいは懸念の声が報じられている。このことは、他の科学技術分野に対しても同様であり、以下の観点から重点的な取り組みが求められる。*科学技術の重要度や優先度を峻別し、正確な内容をわかりやすい表現で伝える研究を進め、そのようなインタープリテーションのトレーニングを受けた人材を育成する。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | | | 0 | |
| 86 | その他 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 原発事故の発生以来、我が国の情報の公開と発信に対して、国内はもとより海外からも不満、不安、あるいは懸念の声が報じられている。このことは、他の科学技術分野に対しても同様であり、以下の観点から重点的な取り組みが求められる。*上記2点を推進するために、自然科学のみならず、人文科学、社会科学との知見の融合を強力に推進すること。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | | | 0 | |
| 87 | その 他 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 社会システムが高度化、複雑化する中で、今回の 震災や原発事故では、防災、通信、サプライ チェーンなどの社会システムの脆弱さが明らかに なった。我が国では個別技術に比して、システム 構築力で欧米先進国に遅れているのが実態では ないか。 今後も想定される社会のリスクに適切に対応する には、社会や産業構造の一部の機能が失われて も全体として機能を代替、維持できる強靭さ (Resilience)を社会システムの構築や運用の中で 実現する文化を育て上げていくことが必要であ る。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | | | 0 | |

| | 135,2 | サースノノ | <i>/ 1 / / / / .</i> | ノ余に刈り るハノリックコネノト | | 利尚什么人们 | に対するご会員 | | 71-BB- | | 7月14日 |
|----|---------|---|--------------------------|--|---|--|---|------------|--------|-----------------|--------------------|
| | 投稿 | ご意見の対象と | I | 平成24年度アクションプラン案に対する | 一思兄 | 科子技術主般 | に対するご意見 T | | | ¯るご意 3. グ 【4 | <u> </u> |
| No | 者属 性 | こ息見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 511 611 | 興•再 | リーン | を ・人 の他 † |
| 88 | 会社員 | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | えば一人あたり使用可能なエネルギーは何kWhなのか、目標をある程度は明確にしないとどこまで | る。単に技術的な面だけで解決できる問題ではないが、気持ちよくリユースできるような製品をつくる | | | | | 0 | |
| 89 | その他 | 振興及び人材育 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 今回のアクションプランでは、分野を問わず、システムについての言及が十分でない。個別に進められたものをイノベーションにつなげる観点がこれからは不可欠であり、下記を提案する。 ・基礎研究の強化の中に、システム研究を基礎研究の重要な位置分野と位置づけ、システム基礎研究の内容と実施方針を明確にして進めるとともに、システム基礎研究の拠点を形成する。・システム基体のリスク監視、シミュレーションの高度化をはかり、複雑系科学など工学的なアプローチも重視し、災害や事故発生時の実運用の仕組みを組み込む。・人材育成の中に、俯瞰的視点を持ったシステム研究者を育成するプログラムを入れる。 | 上記アクションプランに関する意見に包含。 | | | | | | 0 |
| 90 | 団体職員 | 1. アクションプ ランのねらい,3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 平成24年度の科学技術重要施策アクションプランは、平成23年度のアクションプラン提言後、東日本大震災を受けて出されたものであるが、平成23年度のアクションプランに比較して、具体性に欠けている感じがする。 | 「III グリーンイノベーション」を柱の一つとして掲げている科学・技術重要施策アクションプランとしては、自立・分散型エネルギーシステムを用いたコミュニティー構想などの課題などを掘り下げて、さらに具体化した提案を行ってみるのはどうか。実際にどのようなエネルギーシステムであるべきなのか、有識者の知識を集約すれば、さらに具体的な構想・課題が見えてくるのではないか。 | 「III グリーンイノベーション」を柱の一つとして掲げている科学・技術重要施策アクションプランとしては、自立・分散型エネルギーシステムを用いたコミュニティー構想などの課題などを掘り下げて、さらに具体化した提案を行ってみるのはどうか。実際にどのようなエネルギーシステムであるべきなのか、有識者の知識を集約すれば、さらに具体的な構想・課題が見えてくるのではないか。 | 元々、「自然共生・循環型社会を実 感できる「環境先進国日本」を世界に 先駆けて構築する」ことを提案してづ のは、平成23年度のアクションプラ ンである。東日本大震災後を踏まえ た科学・技術重要施策アクションプラ ンを出すのであれば、科学的実現性 があって、かつ希望にあふれたもの にして頂きたいと思う。 | 0 | | 0 | |
| 91 | | 2. 復興・再生並 びに災害か上、3. ゲリーン・イノ ベーション、5. 基礎研究の振興 及び人材育成の 強化 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 今回の震災復興と将来に発生する災害対応とが 混ざっており、分けて議論すべき。災害対応は、 今後科学技術施策として重点化すべき課題の記 載が少なく、検討の時間軸を長くすべき。災害発 生後の対応技術に重点を置いた取組が必要。エ ネルギー関連以外のグリーンイノベーションがほ とんどなく、重点的取組の記載内容は、一般的な 内容のみであり、もっと突っ込むべき。基礎研究 振興は、内容が非常に漠然としており、人材育成 の記載がほとんどない。 | 今回の震災は、多くの科学技術課題を提議したが、直接的な復興に対して、今後の科学技術の開発を当てはめるのは、時間軸的に無理がある。日本では防災対策に重点が置かれ、その対策が不十分で災害が発生した後の対応については、原発問題中心に全く不十分であることが露呈した。基礎研究の振興の執行柔軟性向上は、そうなるべきことだと思うが、制度の運用の話であり、ここで大々的に語られることに違和感を感じる。 | | | | 0 | 0 | 0 |

| | | · · · / X / / · |). | 平成24年度アクションプラン案に対する | | 利学技術全船 | こ対するご意見 | ΔΕ | に関す | | | <u>F / </u> |
|----|-------|---|--------------------------|---|--|---|---------|-----|------|---|--------|---|
| No | 投稿 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | | 理由 | | | 1.ね | 2. 復 | | 1. ラ は | 5. 基 6. そ 礎・人 の他 材 |
| 92 | · + | 振興及び人材育 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 機関等にプロジェクトを公募し競争させて採択課 | 研究関係予算は限られているため、競争的にプロジェクトの採択を決めることが多いですが、公募に応募するために傾注される力は大きく、特に採択されなかった場合にそれに費やされた時間の消耗や脱力感はかなり大きいと思われます。そこで究例点を決めそこから関連大学、研究機関のネットワークを作って、その拠点を通して予算も行き渡るようにして、その分野の国際的な競争力をつけるようにする方向に転換した方が効率的であると考えます。そして国際的な競争力の観点から研究評価を行うようにすてば良いと思います。現在よりもっと国際的競争に対応できる体制を構築する必要があると考えます。 | | | | | | | 0 |
| 93 | 団体 職員 | 2. 復興・再生並びに災害からの 安全性向上,3. グリーン・イノ ベーション,5. 基礎研究の振興 及び人材育成の 強化 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 東日本大震災からの復興は焦眉の課題であり、 現在わが国が有する、あるいは入手可能な技術 を駆使して迅速に復興に臨むべきです。この点、 将来技術の創生を目的とした中長期技術戦略と まったく分けてアクションプランを作成すべきと考 えます。 また、わが国の災害からの安全性向上の対象を、 地震、津波、放射能に限って議論するのは、あま りにも近視眼的と考えます。 | 東日本大震災からの復興は待ったなしであり、確立されている既存技術を駆使して臨むべきと考えます。 災害に備える必要性は、それが生じるリスク×生じたときの被害の甚大性で判断すべきで、これを機会に、あらゆる災害について再度見直す必要があります。 | エネルギーの消費削減は重要課題ですが、産業用エネルギーの場合には、生産された成果物が大きく省エネに寄与する場合もあり、これらのきはも十分考慮して目標を定めるべきと考えます。 化学工学や物理化学など、真の「基礎研究」があります。これらとを健全にでして支えている、真の「基礎研究」があります。これらを健全に育ていくことも国の役割に応も、限す。今回の原ネルギー政策の根幹の用の東ネルギーのと理解しています。 | | | 0 | 0 | | 0 |
| 94 | 会社員 | 2. 復興・再生並 びに災害からの 安全性向上 | | p10(2-2-4) 「情報のより迅速かつ確実な伝達」や「必要な情報の確保」に関連して、平常時にも使える災害に強いディペンダブルなネットワークの研究開発および被災時のコミュニティの力を生かした地域の安全・安心を向上する社会情報インフラの研究開発が喫緊の課題であり、最重要課題の一つとして取り組むべきである。 | 今回の大震災により、情報がいかに大切であるか、通信がライフラインとしていかに必須なものであるかを日本は身をもって体験した。さらに、避難されている方々に対する、情報伝達・コミュニケーション不足等による不安やサポート不足が大きな問題になりつつある。このため、災害に強いネットワーク、およびそのインフラ上で実現する地域の安全安心を向上するシステム及びサービスが、先進国で唯一大規模震災の経験国として必要な研究開発と考える。 | | | | 0 | | | |

| _ | 一八人 | 4十段プグ | ノコノ ノ フ . | ン条に対するハノリックコメント・ | | T-1 244 1-1 25- A - 15 | 1-U-1-7 | D/= 00 | | 成23年 | | |
|----|---------|---|--------------------------|--|---|------------------------|--|------------------|---|------|---------------------------|--|
| | 投稿 | ご立日の4年! | | 平成24年度アクションプラン案に対する 「 | 三思見 | 科字技術全般 | こ対するご意見 | Pに関す | | | | |
| No | 者属 性 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 2. 復 興·再 生 | | | 5. 基 礎 · 人 材 | |
| 95 | 研究者 | 3. グリーン・イノ ベーション .4. ラ イフ・イノベー ション .5. 基礎 研究の振成の強化 人材育成の強化 | 以音・兄直しを | の遺伝子多様性・構造研究が必要である。(2)ライフイノベーションに関して、製薬産業は概して新薬開発に未経験であり、臨床機関に先立って、生命理工系学部をはじめとする最高の研究機関と最良のバイオテクノロジー組織との協力関係を構築 | 高レベル放射性廃棄物施設から単離された放線菌や放射線耐性菌は、高いDNA修復能力を持つDNA修復促進タンパク質の制御機構が耐性機構に関わる。古細菌は燃料電池用の水素を産生させ、超高熱菌由来の耐熱性酵素は、バイオエタノールの生産性の向上や水質土壌改良など農業・環境分野での活用でき、この取り組みは環境負荷に低減につながる。人間が立ち入ることができない土地の土壌改良には微生物や酵素を使用するのが好都合である。その微生物や酵素と、非効率性や低活性を揶揄されてきたが、化学反応に比べより広範な基質特異性を有するため、放射性物質だけでなく、その悪影響を受けたあらゆる非天然成分を除去する利点をもつ。経理学上の単純比較したコスト高は、非科学的であり、もう不採択の口実にはならない。 | | だから突き動かす原動力がいる。誰も見たことのないものを見たい、知りたい、そんな欲求が、突き動かすで資金の獲得は、研究を続ける手段あって、目的にはなりえない。しかるなりし、近代生化学は資金がかかるなが高れ、かるな研究費の囲い込みが落底止に、の資金を得るためではなって、対象を得るためのではなって、世界を驚かめている。研究内で、世界を驚かなって、対象を得るためではなって、世界を驚かなって、世界を驚かななって、世界を驚かななって、世界を驚かななって、世界をなかないないで、世界をなかないないで、世界をないないないでは、研究ができる環境を作らなければ研究ができる環境を作らなければ研究ができる環境を作らなければ研究ができる環境を作らなければ研究ができる環境を作らなければ研究ができる環境を作らなければ研究ができる環境をです。世界を相手にした研究を考えるべきです。 | | 0 | 0 | 0 | |
| 96 | 会社員 | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | | カ逼迫状況となっている。このため、蓄電技術と ICT技術によりエネルギーを管理する技術が必要 | | | | 0 | | | |
| 97 | 研究者 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | その他 | 科学技術の多様性を積極的に支援することを強く 主張することを望みます. | 論文被引用件数の高い研究が良い研究とは限りません。また将来役に立つ研究が常に先端というわけでもないと思います。目先の研究支援にしか目が及ばないことで、研究者が研究費を獲得しやすい側に流れてしまうことを防ぐメカニズムは必須と思います。 | | | | | | 0 | |
| 98 | 団体職員 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | | 基礎研究の取り組みを強化するのは良いと思いますが、"産業化を視野に入れた基礎研究の振興"、"将来の産業を開拓する基礎研究の振興"、さらに、人材育成に関しても"産業界にも精通した起訴研究者の育成"というような産業の側面からの視点も少し取り入れた考え方も必要かと思います。 | "豊かな国民生活"や"経済の発展"を実現するには基礎研究のみでは不可能であり、基礎研究で得た結果を事業につなげ、経済・産業を豊かにするための産業界との連携が必要不可欠となると思います。また、基礎研究だけに長けた頭でつかちの人材のみを多数育成しても経済・社会が豊かになるとは限らないと思います。 | | | | | | 0 | |

| | | 収24 十 及 ア フ フ コ フ フ フ ス (- X) 9 | | | | 科学技術全般 | 科学技術全般に対するご意見 | | | 平 り APに関するご意 | | | 14日 |
|----|-----------|--|--------------------------|--|--|---|---|--|------------------|----------------------------|------|---|------|
| No | 投稿 | ご意見の対象と なる箇所(複数 回答可) | ご意見の概要 | - 7,000 - 7, | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | | 2. 復 興·再 生 | 3. グ | 4. ラ | | 6. そ |
| 99 | 会社 員 | 5. 基礎研究の 振興及び人材育 成の強化 | その他 | 人材育成に関して、とくに「育成」に関して政策課題や重点的取組の具体的な記載がなされていない。また「各研究領域の論文被引用数で世界上位50位以内に入る研究研究教育拠点を100以上構築する」(p.24)とあるが、「各研究領域」をどの程度の広さに捉えているのかにもよるが、今の日本で「50位」というのは目標が低すぎる。 | 人材に関しては、単に得られる人材ではなく、「意識的・積極的に努力して育成する」ことが大切である。具体的で、インパクトのある内容がほしい。 世界で何位以内という場合、例えば「有機合成」、「触媒」というレベルの領域なら10位以内、「化学」「物理」というレベルの領域なら30位以内を目標とすべきだと考える。 | どのような分野や技術に資源投資を するか、リスク党悟で真剣におこなっ ていただきたい。 | リスクに対する責任を覚悟することな く、成果が見えているものだけに投 うしていたのでは、科学・技術が次 第に先細りする。 | | | | | 0 | |
| 10 | 0 研究 者 | 4. ライフ・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 国産の従来よりも高精度・高感度な計測機器を開発し、その力を用いて推進・実現する各病態におけるバイオマーカー探索をさらにつよく推進すべきである。 | 防災・防火同様、病態に置いても発病前に未然に防ぐ事が極めて重要であるとともに、早期での対応もその効果(治療効果や費用、経済活動も含めた生活の質など)として極めて大きな意味を持っている事から、各病態における早期発見及び高精度な診断を可能とするバイオマーカーの有用性は言うまでもない症がある。特にがんにおける早期発見はその治療効果に本質的な違いを生み出すものであることから、今回の大震災に関連する原子力発電所事故による健康被害への懸念とも関連して、一般に5年から10年後に放射能により引き起こされるがんに対する対応としてがんにおける早期発見バイオマーカーの同定及び診断法の確率は必須事項と考えられる。 | | | | | | 0 | | |
| 10 | 研究 1 者 | 4. ライフ・イノ ベーション ,5. 基礎研究の振興 及び人材育成の 強化 | | うつ病、認知症のみならず、統合失調症、自閉症、境界性人格障害等の精神・神経疾患の初期マーカーの探索とそれに基づいた発症予防にもっと重点的に取り組むべきである。神経疾患のマーカーは遺伝子などの分子マーカーだけでなく、神経活動マーカーや画像マーカーなど、脳神経系の複雑さに対応して多様であるので、臨床医学だけでなく、基礎医学、生命科学、薬学、工学、心理学等を含めた多方面からの複合的取り組みが必要である。 | 交通事故死の約5倍にあたる自殺者のうち、多くがうつ病であること事実だけからも、その対策が 喫緊の課題であることは明白である。さらに重要なことは、うつ病、統合失調症、自閉症、認知症などの精神神経疾患の患者の絶対が多いことで、全てを合わせると総人口の10%近くになると考えられる。多くが就労困難、引きこもり等の社会適応の困難を示し、社会全体の負担と損失は計り知れない。精神神経疾患のあり期マーカーの探索と発症予防は、超高齢化社会を迎える我が国の活力を維持する上で、最重要の課題であると言える。 | 一方、研究者の自由な発想に基づく ボトムアップの研究費を充実させ、純粋な基礎科学研究を促すようにお助いしたい。非常に厳しい国家の財政 状況ではあるが、我が国が将来にわ たって科学技術で世界をリードできる | 若者の理科離れを食い止め、国民に 科学にもっと関心を持ってもらえるようにならなければ、科学技術創造立 国を標榜する我が国の将来は暗い。 そのためには、「科学は面白く夢がある」ことを示すことが何より重要である。また、科学技術で世界をリードし、尊敬を得るためには、我が国発の独創性の高い研究を育むことが必須である。これらを推進するには、科学の原点である、自由な発想に基以外にないと考える。 | | | | 0 | 0 | |
| 10 | 2 会社 | 3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 2-2 政策課題「分散型エネルギーシステムの拡充」(2-1)重点的取組「革新的なエネルギー創出・蓄積技術の研究開発」において、燃料電池に併せて、水素の製造・輸送・貯蔵についても、重点課題とすべきと考えます。例えば、同項の4行目において、「これらを達成することが強く期待されている蓄電池や燃料電池(及び水素)」といった記載の見直しをご検討いただきたく存じます。 | 輸送エネルギーの電力へのシフトは重要な課題であり、そのキーとなる技術は蓄電池と燃料電池であることは記載の通りと考えます。その燃料電池のエネルギーとなるのが、水素であります。クルマとエネルギーは表裏一体であることから、燃料電池と水素はセットで重点取組みとすべきと考えます。現在、燃料電池自動車は2015年の実用化を目前にしておりますが、その最後のハードルが水素インフラの構築であります。 | エネルギーには、作る(一次エネルギー確保)、運ぶ・蓄える(エネルギー確保)、運ぶ・蓄える(エネルギー媒体の選択、供給インフラの確保)、使う(省エネ)の側面があると認識しております。ご提案申しあげた「水素」は、一次エネルギーの多様化方が、燃料電池と併せて省エネルに対応、燃料電池と併せて省エネルに対応、燃料電池と併せて省エネルに、石油、ガス、電気に加重が、手段を多様化すると構築して運気を蓄える手段としても有効であるなど、全ての側面においてグリーンイノベーションに貢献しうるエネルギー媒体であると考えております。 | | | | 0 | | | |

| | | X24年度アクンヨンノフン条に、対 9 るハフリツクコメントー 寛 平成24年度アクションプラン案に対するご意見 単成24年度アクションプラン案に対するご意見 | | | | | | 平成23年7月14日 APに関するご意見の対象箇所 | | | | | | | |
|----|-----------------------|---|--------------------------|---|--|---|----|------------------------------|------------------|------|------|------|------|--|--|
| N | 投稿 o. 者属 性 | こ意見の対象と | ご意見の概要 | ご意見 | 理由 | 科学・技術全般に関するご意見 | 理由 | 1. ね | 2. 復 興·再 生 | 3. グ | 4. ラ | 5. 基 | 6. そ | | |
| 10 | ₃₃ 研究 者 | , 5. 基礎研究の / 振興及び人材育 成の強化 | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 若手の人材育成に関する具体的提案を盛り込む べき | 本案では外部より既に確立した研究者を招聘する 等の案が検討されているが、ボトムアップ的な政 策の視点が不足していると感じる。OISTなどはい い例だと考えるが、海外から優秀な学生・若手研 究員がより容易に滞在・研究できるシステムを、国 内の学生のサボートの充実とあわせて検討すべ きだと考える。また、大学院教育を原則英語にす る等の政策も必要と考える | 今後ともGDP比で同程度以上の予算措置を期待する。また、研究者が事務処理上の手続き等、本質的でない部分で多くの時間を割かれるケースは未だに解消しておらず、そういった部分でのシステムがより効率化されることを望む。 | | | | | | 0 | | | |
| 10 | 4 研究 | 2. 復興・再生並びに災害からの安全性向上,3. ゲベーション,4. ライフ・イノ・ラション,5. 無及び人材育成の強化 | した上で推進すべき | II 復興・再生の項は政治、経済、土木分野が含まれ総花的に過ぎる。科学技術が貢献できる項目のみを強調すべき。重点項目> 1)災害に対して強靱で再生力の高いインターネットを基盤とし継続的なモニタリングと除去方法、および健康への影響の評価と広報。 明日の表に表して、現行案はクリーンで、再生可能なエネルギーを作り出す事が可能との「あり得ない」前提で書かれている。現実はどのようなエネルギーでも人類が使用するレベルでは環境へのダンメージは避けられない。この事実を国民に納得させた上で、低不可、高効率、高安定性への「ひ考させた上で、低不可、高効率、高安定性への「ひ考させた上で、低不可、高効率、高安定性への「ひ考させた」の「クリーン化」は対しない。「2−2 分散エネルギー利用の効率化」は賛成。「2−4 社会インフラのグリーン化」は科学技術の対象からはそれるので削除。 IV ライフイノベーション については2−4を除き賛成 V 基礎研究振興・人材育成については詳細に書かれた項目に委員の方々の熱意が感じられ、強く支持します。 | II 復興・再生の項に肝心な原子炉の安全性向上、高レベル放射性廃棄物の処理、原子炉事故時の被害評価と放射能拡散予測などに触れられていないことは奇妙である。また現行の火力・原子力・水力の安定かつ安全な運用と廃止に関わる技術への投資も書き込むべきです。 IV ライフイノベーション 2-4「優れた医療技術の開発促進」は「レギュラトリーサイエンス」の意味が不明なため評価出来ません。この項目は文章を練り直す必要があります。 以下の用語は定義が曖昧で説明を要する(もしくは削除)。グリーンイノベーション、ライフイノベーション、クリーンエネルギー、再生可能エネルギー、創エネルギー、グリーン化、パワーエレクトロニクス、スマートグリッドシステムモデル、革新的 | 学体として一貫した見通しかまた次 けていると思います。Iの「ねらい」の 項では今後20-50年の展望を示して 国民の理解と覚悟を求め、その上で 個別の施策に入る事が望ましいで す。 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 10 | 研究 者 | 1. アクションプ , ランのねらい3. グリーン・イノ ベーション | 改善・見直しを した上で推進 すべき | 大きな方向性としては間違っていないが、もっと具体的な内容・テーマ・イメージをもってアクションブランとすべきではないか?創エネ、省エネが3本柱になり、それにスマートグリッドが加わりますが、一応上記4つはカバーされている。しかし、緊急度から行くと、やはり省エネが最優先であり、その間に創エネ・番エネ等の技術開発を進めるのが現実的だと思われる。従ってもう少し時間軸を意識した予算の重点配分が必要である。また、技術開発が中心となっているが、実効性を持たせるためには、総合科学技術会議としても制度・法制上の対応もコメントすべきではないか?例えば、FITをどうするのか、発電・送電分離の問題、省庁間の縦割りを如何に排除するか(休耕地の取扱いなど) | 上記のような観点で、もっと分かりやすく、具体的なイメージができるような内容にしてから、推進すべき。 | | | 0 | | 0 | | | | | |